

きゅうしょくつうしん

2月6日(木)



- ごはん
- 鶏ちゃん
- すったて汁
- 初午団子
- 牛乳

1～6年生

今日は「初午」です。初午は2月の最初の午の日のことを言います。土用の丑の日にうなぎを食べる習慣があるように、初午の日にはお稲荷様の好物である「油揚げ」や「初午団子」を神様にお供えして、食べ物がたくさん採れますようにと願います。岐阜県では繭の形に似せた初午団子を作り、質の良い絹糸がたくさん採れますようにと願うそうです。そこで今日は岐阜県の郷土料理である「鶏ちゃん」と「すったて汁」も紹介します。

日本には色々な伝統行事があります。伝統行事には、昔の人々のたくさんの願いや思いが詰まっています。災害や災いに対する知恵を伝えているものもあります。色々な伝統行事の意味を知り、守り伝えていけたら素敵ですね。今日もよく噛んで味わっていただきましょう。

(担任用豆知識)

「初午」って
な～んだ？



「初午」とは、2月に入って最初の午(うま)の日を言います。

この日は全国を通して稲荷の祭日として知られています。これは、京都伏見の稲荷神社が西暦711年(和銅4年)2月の初午の日に三ヶ峰に降臨されたという縁起によるものです。

稲荷はもともと農事の神で、初午は春の農事に先駆けて豊年を祈る祭りであったと言われています。そのため農家では、初午の日に馬をひいて稲荷に参る風習がありました。稲荷を奉らない村でも、この日は仕事を休み、神棚に灯明を上げ、お神酒や油揚げを供えます。きつねを稲荷神の使者と信じていたため、この日に油揚げを神前に供え、油揚げと菜を食べる風習が広く行われます。

